

グループホーム 八幡

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	法人全体での理念を踏まえ、地域との交流を行い、関係を深めていく中で、よりよいサービスが提供出来るよう、地域に根ざすサービスを目指したグループホーム八幡独自のものを作っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	ユニット内に、理念を掲示し、全職員が理念の内容を理解している。また、毎日の申し送り時に、唱和することで理念を確認し、それを念頭において業務にあたっている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	散歩コースを地域の方々とお出会う場所に設定したり、地域の行事などの参加を通じて、利用者が地域の中で生活していることを理解してもらえようとしている。また、町内会長や、運営推進会議を通し、地域の方にホームにお越しただけのように、お願いしている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	入居者と園外散歩を行う際に、出会う地域の方々に対し、あいさつをするようにしたり、保育園の園児に散歩の途中、遊びに来てもらったりしている。運営推進会議や地域の盆踊りの際に、ホームに遊びにきていただけるようお願いしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	敬老会・市民センターのお祭り・地域の小学校の運動会等に出かけ、交流を図っている。保育園・小学生・中学生・高校生が入居者と触れ合える機会を作っている。		子供や、若い学生との触れ合いに、入居者は大変喜ばれている。実習担当・ボランティア担当職員に働きかけ、機会を増やしてもらうように依頼している。

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎年、盆踊り会場の設営・片付けに職員が参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議内において、外部評価の概要にて説明し、また、自己評価表・評価結果についても報告し、全職員で取り組むべき内容について考え、実行している。外部評価結果を、訪問者が自由に閲覧できるようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1度のペースで運営推進会議を開催している。ホームでの日常生活や行事・職員の研修内容などを報告している。その会議で出た意見を施設運営に反映させるように努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のお知らせをお持ちするのに、地域包括支援センターへ行ったり、公用にて役所へ行く際は、入居者と共に行くようにしており、センターや役所の職員の方に声をかけていただく機会を増やしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が研修を受講し、全職員が理解できるようにし、必要時には活用できるようにしている。また、実際に権利擁護を活用している、法人内の他施設と情報交換を行い、グループホームにおける活用の想定を行っている。また、社会福祉協議会の市民後見人養成の実習生を受け入れており、意見交換を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加、その他職員会議の際に、虐待・身体拘束廃止の勉強会を実施している。また、ボランティアや実習の受け入れ、地域社会との交流を通じて、意識改革を図っている。小さなアザ等を発見した場合は、管理者・リスクマネジャーへの報告体制をとっており、その原因の究明をその都度行っている。		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には時間を十分にとって説明を行っている。解約時にも、手続きは文書を通して詳しく説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム入口に「ご意見箱」を設置し、年長者の里オンブズマン委員会が対応する仕組みをとっている。また、月に1回、介護サービス相談員を来ていただいている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月始めに、入居者のご様子を記した手紙をご家族に送付している。その他、日常生活での小さな変化があれば、面会時もしくは電話にて報告を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム入口に「ご意見箱」を設置し、年長者の里オンブズマン委員会が対応する仕組みをとっている。また、重要事項説明書に、オンブズマン委員会・当事業者ご利用相談室や公的機関での苦情申し出先について明記し、ご家族に対し説明を行っている。ご家族との会話の中で、ご意見や苦情等を汲み取り、対策を講じるように努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日の申し送り・職員会議や個人と話を聞く中で、意見交換を行い、施設運営に反映させるようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者個々の状態・生活のリズムに合わせ、勤務体制が整うように努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内でのグループホームの開設に伴い、人事異動が例年より多くあった。入居者・ご家族には説明・報告を行っている。ケアプラン内に、入居者ごとのケア方法を明記し、各職員が同じサービスを提供できるようにし、新しいスタッフが入居者と信頼関係を築けるように、配慮をしている。</p>		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	採用にあたり、性別・年齢は問うていない。また、管理者は、それぞれの職員の能力を見出し、いかにその能力が發揮できるように援助している。		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	採用時、幹部職員によるオリエンテーション内において、人権尊重に関わる研修を行っている。また、随時、外部研修への参加の促進や、職員会議で議題に挙げるなどし、取り組んでいる。		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	採用時、介護指導実習を全職員受けている。また、随時、法人内外の研修への参加を計画・実施している。		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	法人内のグループホームや、他のグループホームと交流を行っている。随時、訪問や電話等で情報の交換を行い、サービスの質の向上を図っている。		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員に対して個別面談を行い、相談体制を整えている。		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員からの業務内容等の提案を積極的に取り入れたり、全職員に、担当入居者を受け持たせ、責任とやりがいのある仕事ができるようにしている。また、契約職員に対し、勤務態度・勤務日数によって時給のアップを行い、正職員への登用を積極的に行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面談時に1時間ほどお話をする。不安を抱えているご家族が多く、その不安を解消できるように、している。		ご家族の不安だけではなく、利用者本人の声をどのように聞きだしていけるか、職員の相談能力のスキルアップを図っていきたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安に思っていることを丁寧に説明し、新たに不安がや心配事が生じた際は、電話でも来園時でも、いつでも相談に応じる旨を伝えている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な種類の施設があって、どの施設がよいのか分からない、といった初回面談のケースもある。より詳しい介護保険全般のサービスの説明が必要であると判断した場合は、併設の在宅介護支援センターを紹介している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度か足を運んでいただき、気にいって入居していただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者とのコミュニケーションを通し、信頼関係を築くようにしている。また、ご本人がどのような状況にある時に、本音で話したり、本来の喜怒哀楽を表現するかの理解を深め、受容することで、支えあう関係を築いている。		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	今までの暮らしぶりや、本人とご家族との関係等、ご家族と情報を共有できるようにし、ご家族からのケアの希望を真摯に受け止め、積極的に取り入れるように努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	言葉にされない感情を汲み取る努力をしている。これまで築かれてきた家族関係が継続出来るように援助している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方など、馴染みのある方の面会も受け入れており、ご家族より、馴染みの場所を伺い、散歩やドライブのコースとしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士で、円滑にコミュニケーションができるように、職員が間に入るなどの配慮を行い、自然に入居者同士が馴染みの関係になれるようにしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、定期的に連絡を取り、近況をお伺いしている。ホームに遊びに来てくださるようお話している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族からの希望や意向を取り入れるために、常に会話の中から、その思いを汲み取るようにしている。日常生活パターンやふとした瞬間の笑顔など、些細なシーンでも記録に残し、職員が共有できるようにし、ケアに反映させている。		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後も随時、本人の生活歴を聞いている。また、キーパーソン以外のご家族からも積極的に話を聞き、生活歴の把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の心身状況は日々変化しているという認識を持ち、常時入居者の様子観察は欠かさず行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにサービス担当者会議を行っている。本人・家族の希望を取り入れ、入居者が笑顔で楽しく過ごせる計画書の作成を行っている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとに計画見直し・更新を行っている。総合的なプランの立案を目指し、担当医師・看護職員にも照会を行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の入居者の過ごし方・細かな言動に至るまで記録し、介護計画作成にいかしている。		職員が行うケア内容の記載を、詳細に行なうようにするよう、職員への研修に努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している他事業所と連携を図り、他事業所で行われる行事等に参加している。また、併設施設から当ホームに入居されるかたもいる為、時折、併設施設へ行き、その施設での馴染みの入居者・職員との関係が途切れないようにしている。		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方の訪問を受け入れ、入居者が楽しく過ごせるようにしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	「八幡東区ケアマネジメント部会」主催の研修に参加し、他のケアマネジャーやサービス事業者と接する機会を増やしている。		今後、更にネットワークを広げ、支援につなげていきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等で地域包括支援センター職員とお会いする機会を通じて、権利擁護やケアマネジメントについての情報をもらったり、相談をしたりしている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームのかかりつけ医に、週に1回、往診していただいている。また、歯科医師にも、2週に1回、往診していただいている。また、体調不良時には、受診を行い、健康面でのサポート体制を整えている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームのかかりつけ病院が、もの忘れ外来を設置している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当法人クリニックと24時間提携している。週に1回、看護職員が訪れ、全入居者の健康状態をチェックしている。また、健康面・ケアプラン等に対しても、常時相談をしている。		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院された場合は、管理者・計画作成担当者・居室担当を中心に、頻繁にお見舞いに行っている。また、病院の看護職員やソーシャルワーカーと連携を取り、状態を把握できるようにしている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族・医師とグループホームでの介護がどの段階までできるかを相談しあっている。また、入院が長期にわたる場合にも、家族・医師と話し合い、方針を決めている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ホーム内の職員だけではなく、医師・看護師・栄養士等、様々な職種と連携を取り、支援している。家族との話し合いの場において、本人・家族の要望と、ホームででき得る介護について共有し、ホームでの生活の仕方の検討を行っている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ホームでの生活の内容・健康状態は、転居施設・病院等へ伝えている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人内で随時行われている、マナーアップ研修に全職員参加し、入居者への対応の仕方等を学び、振り返ることができる。また、法人の個人情報規定に基づき、個人情報は慎重に取り扱っている。</p>		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中でできる事やできない事、したい事を見極め、自己決定できるように支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方をタイムスケジュール通りに過ごしていくのではなく、その時々々の生活のペースや本人の希望に合わせ、柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域の理容・美容院へ出かけて行き、本人の希望にあわせたヘアスタイルになるようにしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・片付け・食器の洗浄等ができるよう、職員により支援している。食事時は、職員と入居者が共に楽しく食事が摂れる雰囲気作りに努めている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物・おやつ・嗜好品等は、入居者の希望に合わせて、ご家族からの協力もいただき提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各入居者の排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導時間や回数・オムツの種類を検討し、気持ちよく排泄できる環境づくりに努めている。		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を、9時から19時に設定している。一人ひとりの希望を聞き、また、その時々気分にも合わせ、対応している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日々の睡眠パターンを把握し、昼寝を促がしたり、眠たい時に寝れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の持つ能力を見極め、それに応じた作業やレクリエーションを行い、役割や楽しみが持てるように支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理されている方はほとんどいないが、外出時や買い物レクの際に、ご家族からお金を預かり、レジにて、本人がお金の授受を行なえるように支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、園内・園外散歩を行っている。また、ドライブの機会を多く持つようにし、外出援助を行っている。公用にて役所へ出かける際も、入居者と共に出かけるようにしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食・近隣の温泉施設・起業祭等の地域のお祭り等、ご家族もお誘いし、出かけている。		個別に、外出支援ができるよう、また、遠出もできるように、入居者のご希望をかなえていきたい。

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりをされている方に対し、代読・代筆の支援を行っている。また、電話をかけたいとご希望される方に対しても、ホームの電話をお貸しし、難聴等で、電話でのやり取りができなくても、職員が間に入り、援助している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族・知人・友人等の訪問を歓迎し、また、いつでも気軽に訪問できるような雰囲気・環境づくりに努めている。来園された方にお茶等をお出しし、居心地よく過ごしていただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、ホーム内での研修を行い、全職員が身体拘束に関して把握している。また、月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしないケアについて話し合い、その内容については、その都度、全職員に伝え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室の入口には鍵をかけていない。玄関についても、20時～6時までは防犯上、施錠しているが、それ以外の時間帯は解錠している。入居者が玄関から出ようとする事もあるが、職員が見守りを行い、付き添って外に出るようにしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時所在確認を行っている。居室で過ごされる時に、内鍵を閉められる方がいらっしゃるが、声をかけて、開けていただき、安否を確認し、夜間や緊急時等の安否確認の際は、前もってご家族から同意を得た上で、外側から鍵を開けさせていただき、プライバシーに配慮し、安否確認を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	おひとりおひとりの状態に応じ、刃物や先のとがったもの等をお預かりしたり、また、職員が注意喚起しながら自己管理されている方もいる。取り組みについて、それぞれのご家族に説明を行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策についての勉強会を行い、ひやりはっと事例を通じ、個々の入居者の状態の把握を行っている。		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や緊急時の対応について、訓練を行っている。外部での研修にも参加し、その内容を全職員が把握している。		緊急時でも、慌てずに対処が出来るように、様々なシーンを想定した訓練を頻回に行っていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は、夜間想定を含めて、年に3回実施している。運営推進会議内で災害時の対応や消防訓練の結果について報告し、町内会長を通して、地域に浸透できるように働きかけている。ホーム内に災害マップを掲示している。		地域の協力を得られるよう、消防訓練に参加していただけるように働きかけていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の入居者の生活や心身の状態について、常時家族へ説明し、その中で、起こり得るリスクやその対応策を含めて説明を行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子や状態を把握した上で、「いつもと違う」ということにまず気付けるようにしている。小さな変化も身逃さず、全職員がその変化を共有し、様子観察を行い、必要時、医療機関に受診する体制を整えている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすりの処方箋は、各入居者ケースに入れ、常に閲覧が出来るようにしている。また、処方の変更や追加がある際は、異常や副作用がないか、様子観察を行っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の補給・適度な運動をこころがけている。また、各入居者ごとの生活歴や習慣等を把握し、バナナやきな粉牛乳の摂取を促がし、排便コントロールを行っている。		

グループホーム 八幡

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施し、ご自分でされる方も職員が確認するようにしている。また、必要な方には、ガーゼや口腔スポンジを使用している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、必要カロリー・栄養バランスの取れた食事を提供している。水分摂取を促す為、お茶だけではなく、コーヒーやジュース・ゼリー等を提供し、必要水分摂取量を確保している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルに則り、感染予防・対策について実行している。手洗い・うがい・手袋の着用を徹底している。原則、全職員・全入居者が流行前に、インフルエンザ予防接種を受けている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染予防マニュアルに則り、食中毒の予防に努めている。保健所の職員の方を講師に招いた、食中毒対策についての内部研修会に参加している。常に、キッチン周りの衛生管理に努め、週に1回以上は、キッチン周辺・食器の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設入口の玄関やホームの出入り口の環境整備に努め、花などを飾るなどして、優しいな雰囲気を作っている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で生活ができるように、ソファ等の家具を配置している。できるだけ太陽光を取り入れるように、工夫している。		

グループホーム 八幡

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂でのテーブル席だけではなく、テレビ前にソファを設置し、自由に過ごせる環境づくりに努めている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用されていた家具等を持ち込まれ、住む場所が変わっても、できるだけ慣れたものの中で、安心した生活が継続出来るように支援している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適切に換気を行い、温・湿度計をチェックしながらエアコンを使用している。臭気対策として、汚物は逐一処理を行い、オゾン装置で臭いの除去に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間の廊下やトイレ・浴室には手すりが設置している。居室内には、手すりを設置していない為、居室内での本人の動線を把握し、家具の置く位置を配慮し、安全な生活が営めるように援助している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を責めずに、それを受け止め、さりげなくフォローするように努めている。本人の能力を見極め、役割を持つことで、成功できるように促し、自立した生活を目指せるように工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ、花や野菜を飼育している。花の水遣りを入居者ができるように、ホースやじょうろを準備し、職員と共に実施している。		

グループホーム 八幡

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 八幡

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体の法人が複合施設を運営しており、併設施設との連携が図りやすく、今年4月には、同敷地内に、グループホームが開所し、情報の共有がより行えるようになった。各事業所の代表職員が集まり、リスクマネジメント部会やオンブズマン委員会等が毎月開催されたり、マナーアップ研修や介護技術研修等の法人内部研修が充実しており、質の高いサービスをご利用者様に提供できている。また、かかりつけ医院が併設施設内にある為、体調不良などの際は、医療職との連携がスピーディに行え、安心できる健康生活を送ることができている。

「外に出たい」という希望を踏まえ、地域の方との交流も兼ねて、園外散歩やドライブを積極的に行っている。園内においても、それぞれの入居者が好きなことに参加しやすいよう、歌や体操・折り紙等の趣味活動、配膳や下膳、洗濯物干し、お盆拭き等、個々の入居者ができることを見極め、それぞれ、役割や趣味活動を行える体制を整えている。